第7節　まとめ

今回の調査の結果、縄文時代から弥生時代は土器や石器は出土したが、遺構は石器製作址のみで、住居は確認されなかった。しかし、西側の長江川や南東の豊富な湧水（浜川原池）があり、水利の便が良いことから、この近辺で生活していたと考えられる。

古墳時代になると遺物の量が増大し、住居が見られることから、調査区を含む丘陵に本格的に集落を営んだのはこの時期からと思われる。また、調査区内の西側に住居が分布していることから、調査区西側の一段上がった丘陵平坦面が主な生活面と思われる。また、住居が軸を回転させて重なって検出されたものは、川の氾濫による礫層の露出が生活面の面積を狭くしていることから場所の移動が困難で、その場で建て替えを行なったと考えられる。

古代以降になると、溝状遺構が見られるが、掘立柱建物などの住居は見られない。このことから、集落は南に移動し、この場所で、生産活動を行なっていたと思われる。

浜川原地区のこの丘陵では縄文時代前期から生活し、ピークは古墳時代中期から後期であった。７～11世紀は断絶する。12世紀頃、当地区は耕作地として開発され始め、集落は徐々に南に移動し、近世後半以降、大規模な開墾・水田開発が施され、不要な礫は廃棄坑に投入され、平坦地に造成されていったと思われる。

第10章　総括

第10章　総括

調査した７遺跡の成果をもとに、長江川流域の生活史をまとめる。

縄文時代

アカホヤ火山灰降下後、前期に曽畑式・深浦式土器を使用する人々が短期間居住したようであるが、明確な遺構は無い。

丘陵頂部や斜面に堆積したアカホヤ火山灰は風雨によって黄褐色～淡黄褐色の２次堆積層となり、中位～低位面に40㎝前後堆積する。後期にはほぼ安定した居住面が形成され、長径４～５ｍの楕円形土坑（断面舟型土坑）や直径50～80㎝の円形土坑が内丸・馬場田・役所田遺跡で構築される。この大型土坑は、機能を推定させうる遺物が出土していないが、役所田遺跡での検出状況から、不要物廃棄坑と推定される。また、内丸・役所田遺跡の円形土坑の一部は断面袋状を呈し、貯蔵穴と思われる。浜川原遺跡では、石鏃と石匙を製作した集中地点がみられた。

晩期前半までは役所田遺跡を中心に遺構・遺物が認められるが、後半（突帯文土器期）の遺物は極端に減少する。肥沃で広大な耕作地を求めて、集落も川内川の氾濫原へ移動したことが想定される。

弥生時代

前期～中期中葉まで、遺構・遺物を欠き断絶する。中期末、黒髪式土器や器壁が厚く胴部に３～４条の刻目突帯を貼り付けた甕が僅かに出土するが、遺構は無い。後期も同様、免田式土器以外の土器や遺構は検出されない。

古墳時代

主として５～６世紀代、竪穴住居を構築する集落が役所田・馬場田・内丸・浜川原遺跡に点在する。地形的には、浜川原遺跡は中規模の集落で、他は小規模な分村的集落と推定される。

市内には、大庭寺産の大甕や高坏の脚を転用した鞴の羽口20点以上、鉄斧・鉇各1点、鉄鎌２点、刀子１点、鉄鏃数点のほか佩帯状砥石・切子玉などが出土した内小野遺跡と袋状鉄斧１点、鉄鏃７～８点などが出土した佐牛野遺跡(1)に代表される拠点的集落の他、バリが付いたままの鉄斧１点や鉄鏃１点が出土した妙見遺跡、相当量の須恵器のほか鉄鎌１点や鉄鏃４点、刀子１点が出土した上田代遺跡、方形の金銅製帯金具や鉄鏃１点が出土した古屋敷遺跡(2)などの中規模集落、ほか数ヶ所の小規模集落が現在確認されている。

当該期の墳墓は、基本的には同一段丘面には営まれず、谷や川を挟む対岸に占地した様子が想定される。５世紀に繁栄した内小野遺跡の墳墓は、２㎞対岸の島内地下式横穴墓群に比定される。当墳墓群からは短甲７領、冑３鉢、蛇行剣９本、金銅製胡籙金具１式、骨鏃約150本などが出土しており、竪坑上部閉塞タイプ・羨門板石閉塞タイプ・羨道アカホヤ塊閉塞タイプの３タイプが重複し

つつ群在している。分布域を異にするのは造営集団（集落）の違いによる表れと思われ、内小野・妙見・古屋敷遺跡の３つの集落が該当する可能性がある。

長江浦地区の集落の墳墓は、馬場田遺跡から２km北北東に位置する灰塚地下式横穴墓群に、一部は2.5km北東に位置する小木原地下式横穴群に造営していたかもしれない。当墳墓群は、確認総数370基を数える大墳墓群で、３～４支群に分かれる。造墓集落は１km南西に位置する村ノ前遺跡・柊野第１遺跡が主体と推定されるが、未調査のため、結論は出ない。

古代

9世紀以降、段丘面の殆どの遺跡に何らかの痕跡がある。弁財天遺跡では、自然流路内へ一括廃棄された土師器の坏や椀が出土し、小路下遺跡では一括廃棄土坑や二彩か三彩小壷の破片が出土している。役所田遺跡では火葬骨片と炭片が若干入った坏と皿の蔵骨器が出土し、上級階層は火葬を採用していたことが窺える。

馬場田遺跡の05号溝は箱掘りで、９世紀後半に弁財天の湧水から灌漑した用水路と思われる。同類の遺構として、市内中央部の上田代遺跡で検出した同時期の箱掘りの05号溝が掲げられる。当該遺跡の南東600mにある湧水を灌漑したものである。加えて、両溝から墨書土器が出土していることは、当時の土木工事や祭祀が組織的に行なわれたものであることが推測される。

中世

弁財天・馬場田・小路下遺跡では掘立柱建物群が多く検出され、それぞれの地域の核となりえる集落である。弁財天遺跡では、居住地と墓域を溝で区分けし、殯屋を伴う土壙墓群（14世紀後半～15世紀）を営んでいる。小路下遺跡でも円形土壙墓群が集中する地区があるが、殯屋と推定される建物は判定できない。浜川原遺跡では、耕地化に伴って排除した礫を入れた大型土坑を検出している。

内丸・馬場田・弁財天遺跡から出土した布目瓦は15～16世紀代と推定され、祭祀施設の屋根材として葺かれていたと思われる。

長江川右岸には山城が３ヶ所あるが、市内において支流氾濫原を眺望する山城は当地域のみであり、市内の支流の流域面積としては１，２を争う当流域の重要性を物語る。

近世

大部分の遺跡は耕地へと転換されるが、小路下遺跡では17世紀前半～中葉まで中核的集落として存在している。小鍛冶遺構は小路下遺跡のみで検出され、鋳物師の作業・就寝小屋と推定される竪穴状遺構も多く検出されている。18世紀以降、居住地は斜面や高位面へ移動し、耕作地を拡大していく。

長江川は1950年頃まで氾濫を繰り返した暴れ川であったが、反面、肥沃な土壌を供給し、質量豊富な農産物を生み出してきた。古代以降、連綿と続く集落の成因がこの川なのである。

市内　古墳時代の集落と墳墓　遺跡分布図

古墳時代の集落

No	遺　跡　名	竪穴住居 確認数	竪穴住居 推定数
1	内丸遺跡	3	10～20
2	馬場田遺跡	22	30
3	浜川原遺跡	13	30～50
4	天神免遺跡	1	数10
5	内小野遺跡	114	300
6	妙見遺跡	41	41
7	古屋敷遺跡	37	50
8	苧畑第３・二本杉遺跡	2	20～30
9	村ノ前・柊野第１遺跡	0	数10
10	上田代遺跡	19	25～30
11	佐牛野遺跡	15	200
12	茶屋平遺跡	1	数10

古墳時代の墳墓

No	遺　跡　名	墳墓 確認数	墳墓 推定数
A	天神免遺跡	地下式１	1
B	島内地下式横穴墓群	地下式120 地下式　2	400 5～10
C	灰塚地下式横穴墓群	地下式19 地下式３	50～100 5～10
D	小木原地下式横穴墓群 小木原・蕨支群	地下式332 地下式　8	400 10～20
E	久見迫支群	地下式23	50
F	馬頭支群	地下式14	14
G	苧畑地下式横穴墓群	地下式19 地下式４	200 50
H	建山地下式横穴墓群	8	300～400
I	遠目塚地下式横穴墓群	6（墳丘）	30～50
J	杉水流地下式横穴墓群	5～6	50～100
K	松山遺跡	地下式１	1
L	大迫原板石積石室墓群	2～5	10
M	内小野遺跡	地下式１	1
N	鶴丸・馬場地下式横穴墓群（吉松町）	9	数10
O	永山板石積石室墓群（吉松町）	45	50～100

註

(1) えびの市教育委員会　2000　『佐牛野遺跡』　えびの市埋蔵文化財調査報告書第27集

(2) えびの市教育委員会　2001・2002　『東川北地区遺跡群』概報Ⅰ・Ⅱ　えびの市埋蔵文化財調査報告書第31集、33集

報　告　書　抄　録

ふりがな	ながえうらちくいせきぐん
書名	長江浦地区遺跡群
副書名	霧島演習場周辺農業用施設設置助成事業長江浦地区圃場整備事業に伴う発掘調査報告書
シリーズ名	えびの市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第32集
編著者名	中野 和浩・東 真一
編集機関	えびの市教育委員会
所在地	えびの市大字大明司２１４６－２
発行年月日	平成14年３月20日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡	調査期間	調査面積	調査原因
内丸遺跡（まるうち）	えびの市大字西長江浦（にしながえうら）字内丸	9	2034	900917～1106 910107～0201	2,000㎡	圃場整備事業
弁財天遺跡（べんざいてん）	大字西長江浦字弁財天		—	901101 ～910123	2,800㎡	
馬場田遺跡（ばばた）	大字西長江浦字馬場田		—	910201～0327 911014～1220	2,920㎡	
水流遺跡（るる）	大字西長江浦字水流		—	911209 ～920128	4,100㎡	
役所田遺跡（やくしょでん）	大字西長江浦字役所田		—	921025 ～921116	840㎡	
小路下遺跡（おろのした）	大字西長江浦字小路下		—	921109 ～930130	4,350㎡	
浜川原遺跡（はまかわばる）	大字東長江浦（ひがしながえうら）字浜川原		2040	990625 ～991127	8,700㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
内丸遺跡	集落	縄文古墳	土坑竪穴住居	前・後・晩期の土器・石器 朱玉・ガラス玉	
弁財天遺跡	集落	中世	柱穴土坑	土師器・土師質土器・輸入 陶磁器・布目瓦・銭貨	殯屋と土壙墓群
馬場田遺跡	集落	古墳中世	竪穴住居柱穴	土師器 土師質土器・黒色土器	9世紀後半に灌漑
水流遺跡	集落	中世	柱穴	土師器	
役所田遺跡	集落	縄文中世	土坑柱穴	後・晩期の土器・石器 土師質土器	多量の縄文土器
小路下遺跡	集落	古代 ～近世初	竪穴状遺構 土坑・柱穴	二彩か三彩、土師質土器 瓦器　陶磁器	小鍛冶遺構５
浜川原遺跡	集落	縄文古墳	石器製作址 竪穴住居	石鏃・石匙・剥片・チップ・敲き石・土師器・須恵器・朱玉	

えびの市埋蔵文化財調査報告書　第32集

長 江 浦 地 区 遺 跡 群

霧島演習場周辺農業用施設設置助成事業長江
浦地区圃場整備事業に伴う発掘調査報告書

本　文　編

平成14年３月

編集・発行　えびの市教育委員会
えびの市大字大明司2146-2

印　　刷　㈲ 金 子 印 刷 所
小林市大字細野２２６番地